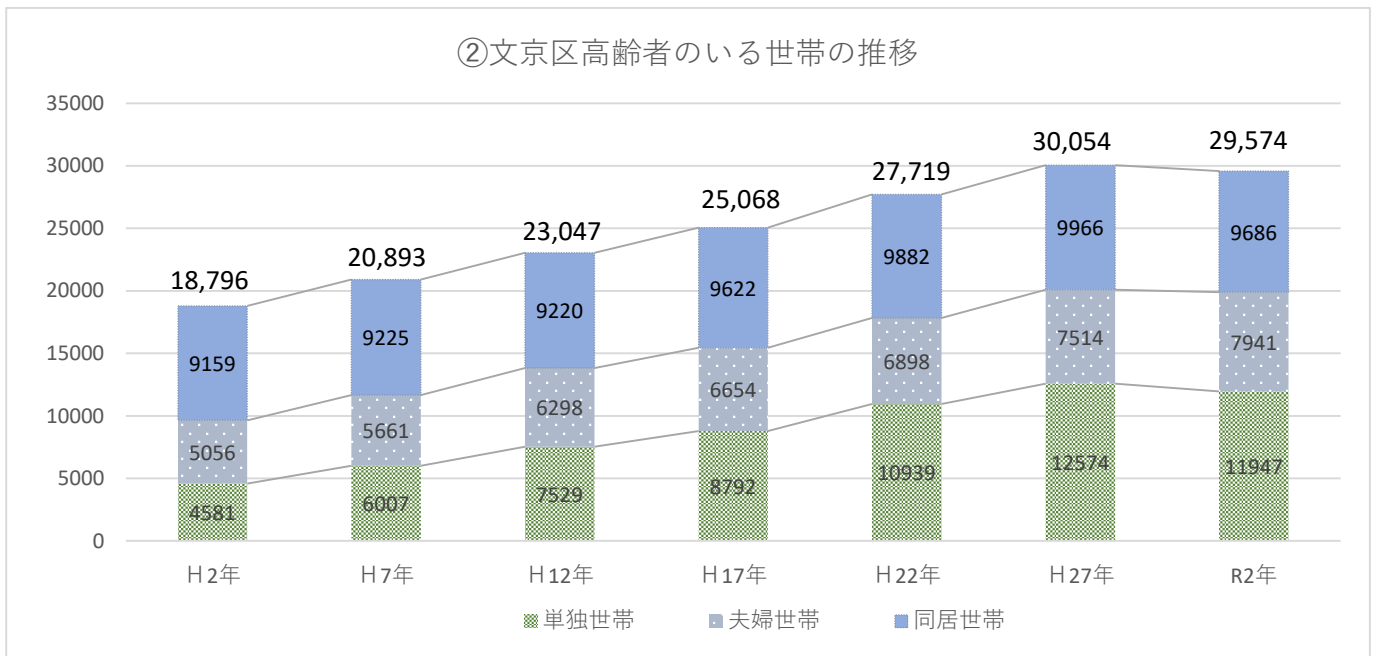


文京区人口統計資料年齢別（各歳）別及び男女別人口（住民基本台帳）に基づく各年4月1日現在の実績値

✦文京区高齢者・介護保険事業計画（令和2年度～令和5年度）の推計では、令和7年（2025年）前期高齢者19,703人・後期高齢者25,258人、令和27年（2045年）前期高齢者35,774人・後期高齢者34,753人となっている



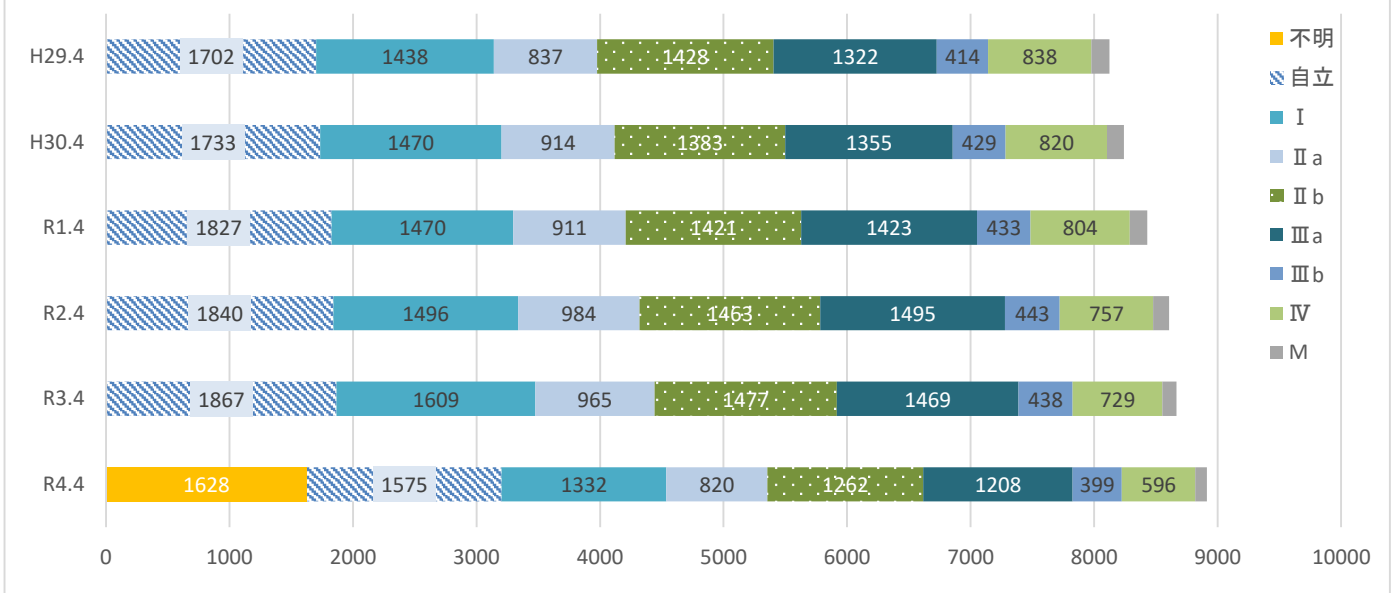
高齢者介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）、令和2年度国勢調査より

✦ 高齢者夫婦のみ世帯は増加傾向

※各年9月現在の介護保険要支援・要介護認定者における独居世帯の認知症日常生活自立度Ⅱ以上の人数
 令和元年：2,384人 R2年：2,577人 R3年：3,012人

文京区の現状

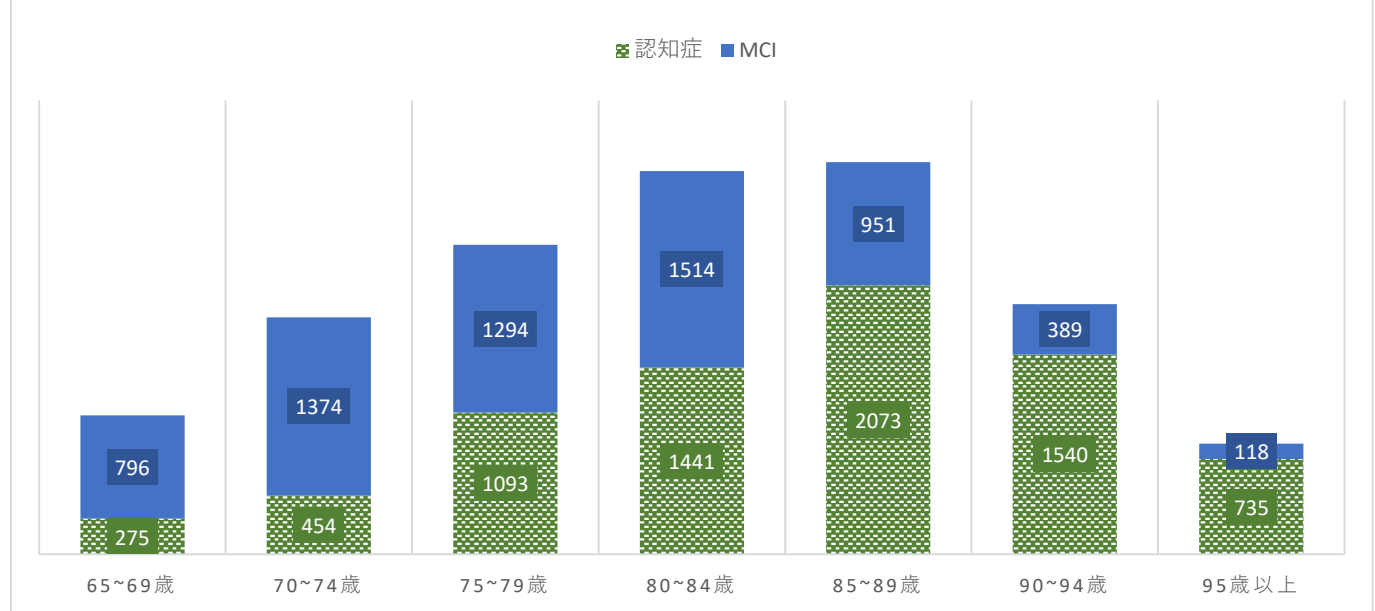
③要支援要介護認定者認知症日常生活自立度



文京区高齢者・介護保険事業計画（令和3年から令和5年）より

★介護認定を受けている方の中R4年日常生活自立度Ⅱ以上は、4,378人（60.1％）となっている。
 ※R4年は新型コロナウイルス感染症により、意見書なしで介護保険の随時的期間延長が行われている為、1628件については内訳不明。

④文京区認知症・軽度認知障害（MCI）の有病率推計



「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」H23年度～H24年度総合研究報告書（研究代表者朝田隆氏）資料を参考にR4年4月1日現在の人口を基準として算出

★ 65歳以上推計（R4.4.1現在の人口で算出）では、認知症：7,611人 MCI：6,436人となっている。

文京区認知症ケアパス作成における理念及び方針

認知症になっても人として尊重され、希望を持って自分らしく生きることができる文京区

- 誰もが認知症の正しい知識を持ち、どのような支援が受けられるか知っている文京区
- 適切なタイミングで適切な支援につながり、切れ目なく支援が提供される文京区
- 認知症であってもそうでなくても、「お互いさま」と当たり前を支えあう文京区
- 認知症の本人を支える家族の生活と人生に、充分配慮された支援のある文京区

普及・啓発の推進

◇ 認知症講演会

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
開催回数	8回	8回	5回	3回	4回	5回
参加者数	109	178	153	283	11	112
平均参加者数	13.6	22.3	30.6	94.3	2.7	22.4

◇ パンフレット等



◇ 認PAKU~認知症に寄り添う機器展~

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
参加者数	396	380	493	569	173	236



◇ 認知症サポーター養成講座

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
開催回数	45回	54回	42回	43回	19回	18回
○ 区民	276	318	455	224	73	161
受 講 者 数						
学校	573	785	360	500	505	311
企業	494	542	499	554	44	175
合計	1,343	1,645	1,314	1,278	622	647

R3年度から



◇ 認知症サポーターステップアップ講座

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
受講者数	6	43	53	28	21	26



R3年度の認知症サポーターステップアップ講座について

認知症サポーターの役割を再確認し、サポーターとして地域に根差した活躍ができるようプログラム内容を改訂した。8月の第1回目講座終了後、9月~11月までの認知症関連事業で延べ5人の方にボランティアとしてご活躍いただいた。



認知症早期診断・早期支援推進事業

◇認知症支援コーディネーターについて

認知症の本人と家族が地域で安心して生活できるよう、区市町村に認知症の医療・介護・生活支援等の情報に精通した地域における認知症の専門家である認知症支援コーディネーターを高齢者あんしん相談センターに配置し、個別ケース支援のバックアップ等を担い、認知症の疑いのある人の早期発見・診断・対応を進めることにより、地域の認知症対応力の向上を図ることを目的とする。

東京都認知症支援コーディネーター事業包括補助事業概要より

◇認知症相談機能強化

～H26年度から認知症支援コーディネーターを配置し個別支援や認知症施策を推進～

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
認知症支援CO対応件数（延）	592	738	856	816	703	729
認知症相談件数（延）	3,317	3,920	3,873	3,316	4,397	3,760

◇もの忘れ医療相談

～H26年7月より認知症サポート医を区の嘱託医として高齢者あんしん相談センターに配置～

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
来所相談件数	36	43	28	22	24	28
訪問相談（再掲）件数	13	12	2	5	3	5

※不在含む

▼もの忘れ医療相談結果 ※重複あり

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
助言	13	14	20	11	14	12
要医療	17	19	6	8	6	13
方針確認	8	8	2	2	0	2
介護保険	5	2	0	0	1	0
その他	0	2	0	1	3	1

▼もの忘れ医療相談”要医療”と判断された方のその後の状況

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
受診他	10	12	4	4	1	7
状況	・嘱託医、他の専門医、介護保険申請など					
未受診	7	7	2	4	5	6
状況	・支援拒否のため、介入の時期を検討 ・初期集中支援事業へ移行 ・包括や関係機関での見守り支援					

認知症早期診断・早期支援推進事業

◇ 認知症初期集中支援推進事業～H29年10月より多職種連携による認知症支援の開始～

【事業概要】

認知症サポート医・専門医・認知症支援コーディネーター（看護師）・社会福祉士・認知症地域支援推進員（区職員）による多職種連携により、認知症のご本人及び家族に対して、医療や社会資源サービス調整等の支援を行う。

年次	事業対象者数			
	H30	R1	R2	R3
文京区	12	11	7	6
全国平均	12.4			

支援の 実際	開始時					
	初動日数	長谷川式平均	ザリト平均	ダスク平均	II a以上	認知症診たて有
H30	15.4	13.1	12.0	44.6	10	11
R1	24.7	15	16.4	45.8	10	11
R2	15.3	14.3	12.3	40.7	4	7
R3	25.2	25	12.4	54.7	6	6
全国平均	17.2	ケアマネジャーの関わりのある事例が多いため、初動日数が延びた。				※疑い含む

支援の 実際	終了時					
	平均支援期間	ザリト平均	支援終了	医療	介護	その他
H30	180.0	11.0	11	1	7	4
R1	206.9	14.0	10	0	2	8
R2	176.2	8.7	13	2	4	11
R3	181.4	10.0	4	0	3	1
全国平均	137.9					

※ザリト(Zarit):介護によってもたらされる身体的負担・心理的負担・経済的困難などを統括し、

介護負担として測定する指標である。点数が増加するほど、介護負担感が大きいとされる。

※長谷川式簡易認知機能評価スケール：認知症の可能性のある高齢者をスクリーニングするために作成された

高齢者用の質問式の知能評価指標である。30点満点で20点以下は認知症の疑いが高まるとされる。

※ダスク：認知機能低下の状態と生活課題の評価を21の質問項目で構成し、リストアップ

したものである。合計点を用いる場合、29点以上で認知症の可能性ありと判定する。

認知症早期診断・早期支援推進事業

◇ 認知症検診事業

【事業概要】

認知症に関する普及啓発を行うとともに、本人による認知症の早期の気づきを支援することを目的に、55・60・65・70・75歳を迎える区民を対象に、認知機能チェックや認知症の普及啓発パンフレットを個別に送付する。希望制（先着・定員あり）で、認知症月間である9月の指定された日時に、指定会場で検診を実施。タブレット端末「のうKNOW」を活用して、脳の健康度測定を実施し、結果について医師からの助言を受ける他、必要に応じて医療機関や診断後支援事業に繋げていく。また、検診会場では、必要に応じた個別の健康相談、管理栄養士や歯科衛生士等による認知機能と生活習慣の関係についてのミニ講座を開催している。令和3年度より開始。

◎ 令和3年度実績

検診対象者 11,367名（55歳：3,071名、60歳：2,248名、65歳：1,975名、70歳：2,427名、75歳：1,646名）

【申込者】 597名

【受診者】 442名 参加率:74%

内訳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	合計
女性	86	75	49	51	72	333
男性	67	60	47	46	44	264
合計	153	135	96	97	116	597

内訳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	合計
女性	62	51	38	38	52	241
男性	49	44	32	41	35	201
合計	111	95	70	79	87	442

・ 女性55.8% 男性44.3%

・ 女性54.5% 男性45.5%

【医療機関連絡書発行】 59名(13.3%)

【個別相談】地域包括：117名（26.4%）、歯科：10名、栄養9名、運動37名

【ミニ講座】歯科：129名（29.1%）、栄養：126名(28.5%)、運動：125名(28.3%)

◇ 認知症とともにパートナー事業

【事業概要】

認知症の症状が進行し、深刻化後に事例化する事から、認知症の早期の段階で支援につながる仕組みを整備した。医療機関で認知症の診断を受けてから診断後の支援まで、ご本人や家族に寄り添った伴走型の包括的なサポートを実施する。R2年9月より事業開始。

【事業実施機関】

区内訪問看護ステーション 16カ所

【協力医療機関】

区内医療機関 56カ所 ※R4年6月現在

	R2	R3
新規利用者数	9	12
年間利用者数	9	21
その他(対象外含む)	1	1

●事務局及び受託訪問看護ステーションとの定期的な連絡会の開催
 ≪議題≫ 事業周知、勉強会企画、事例対応について

●勉強会開催

≪テーマ≫ 事例検討会、協力医療機関医師との意見交換会

●ともにパートナー通信の発行

≪内容≫ 実績報告、支援事例の紹介など

◇ 認知症とともにフォローアッププログラム事業

【事業概要】

認知症の有無に関わらず、日々の生活習慣の大切さや生活習慣病をコントロールする事の大切さ等、総合的な健康管理と個人の状況に応じたスモールステップな行動変容を促す複合的なプログラムを実施。

全3回制	R2年度			R3年度		
	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回
対象者	一般区民			検診受診者	検診受診者 一般区民	検診受診者
来場参加者	38	中止	24	20	36	12
自宅参加者	6	43	24			

≪プログラム内容≫

● 全3回制

- ・ 医師、管理栄養士、歯科衛生士、健康運動指導士による生活習慣改善に係る講話
- ・ デジタルツール「のうKNOW」による脳の健康度測定、脳のエクササイズ「シナプロソロジー®」体験を実施。

※R2年度自宅参加者の第2回及び第3回は追加募集参加者を含む。

地域での日常生活支援の充実・家族支援の強化

◇ 認知症カフェ『ぶんにこ』文京区認知症コミュニティ ◇ 認知症家族交流会

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
開催回数	22	27	25	26	7	22
参加者数	319	558	409	315	64	222
平均参加者数	14.5	20.7	16.4	12.1	9.1	10.1

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
開催回数	8	8	8	7	5	8
参加者数	53	64	58	98	49	68
平均参加者数	6.6	8	7.3	14	9.8	8.5

◇ 認知症家族介護者教室

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
開催回数	8	8	8	8	3	8
参加者数	202	133	186	203	32	113
平均参加者数	25.3	16.6	23.3	25.4	10.6	14.1

◇ 認知症カフェ・家族交流会・介護者教室

新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら、開催規模及び内容の調整を行いながら開催している。

行方不明認知症高齢者ゼロ推進事業

◇ 靴用ステッカー及び衣類用アイロンシール配付状況

配付数	H29	H30	R1	R2	R3
靴ステッカー	37	36	38	48	37
アイロンシール	30	34	31	47	38

◇ 生活環境維持事業

	H29	H30	R1	R2	R3
利用者数	1	0	1	0	0

(人)

◇ SOSメール事前登録事業及びSOSメール配信

	H29	H30	R1	R2	R3
事前登録者数	90	73	89	119	136
メール協力者数	603	640	699	745	808
メール配信回数	5	3	5	3	5
協力者による発見数	0	0	0	0	0

◇ うちに帰ろう模擬訓練

	H29	H30	R1	R2	R3
参加者数	71	43	56	中止	37
R3年11月13日開催し参加者37人。内、認知症サポーター1人のボランティア協力あり。					

◇ GPS探索サービス

	H29	H30	R1	R2	R3
助成者数（持ち運び）	4	1	0	2	2
助成者数（靴収納）				4	4
年度末現在の利用者数	8	6	2	6	8

◇ 高齢者等おでかけ見守りシール事業

【事業概要】 R3年7月事業開始 R4年3月末現在、15名利用中。

認知症の症状による行方不明時の早期保護に役立つツール。衣服や持ち物に貼った2次元コードを発見者が読み取ると、ご家族等へ通知メールが届く。発見者と家族が伝言板を通じて発見時の状況等の簡単なやり取りができる。